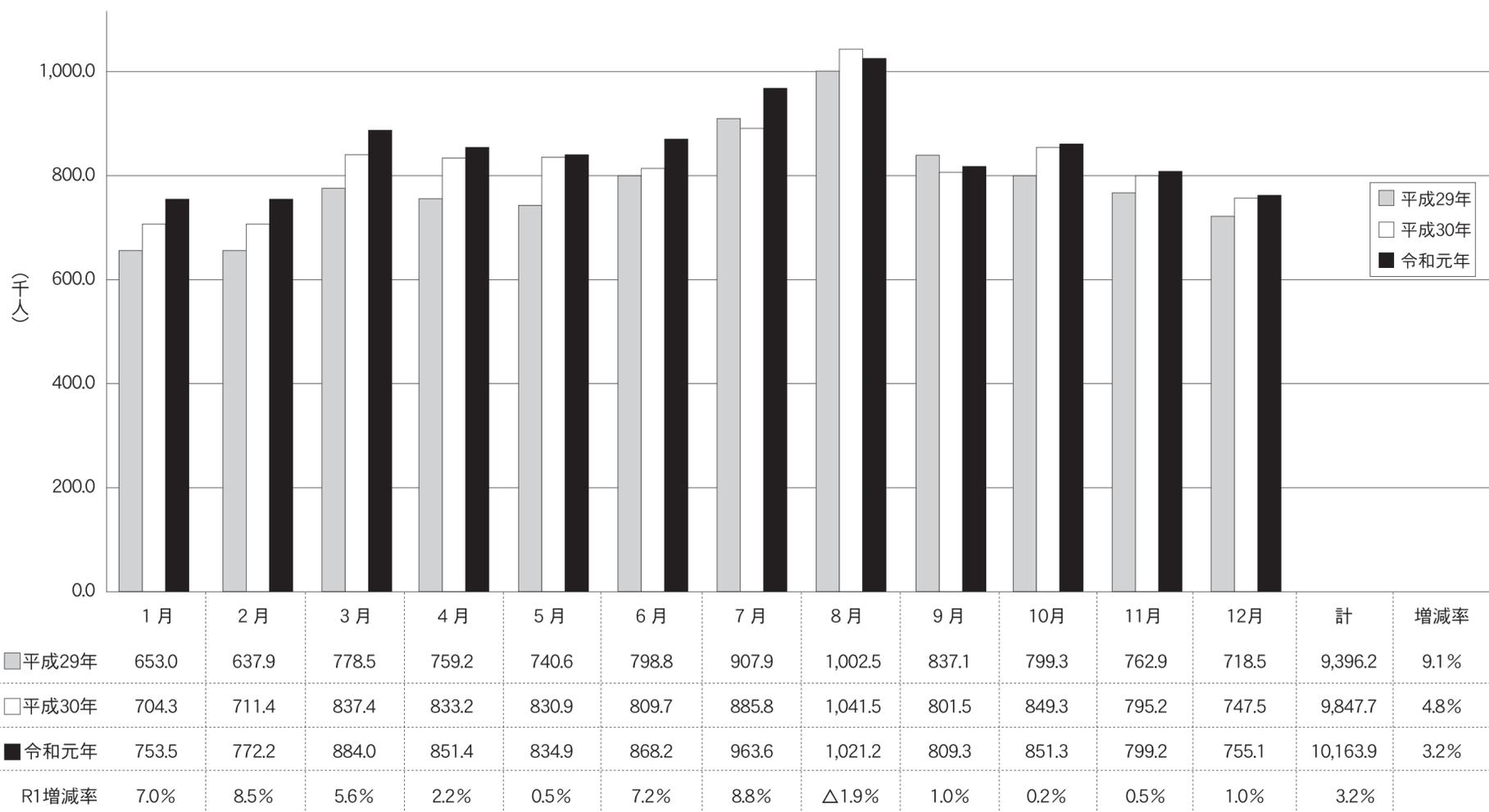


令和元年(暦年)沖縄県入域観光客

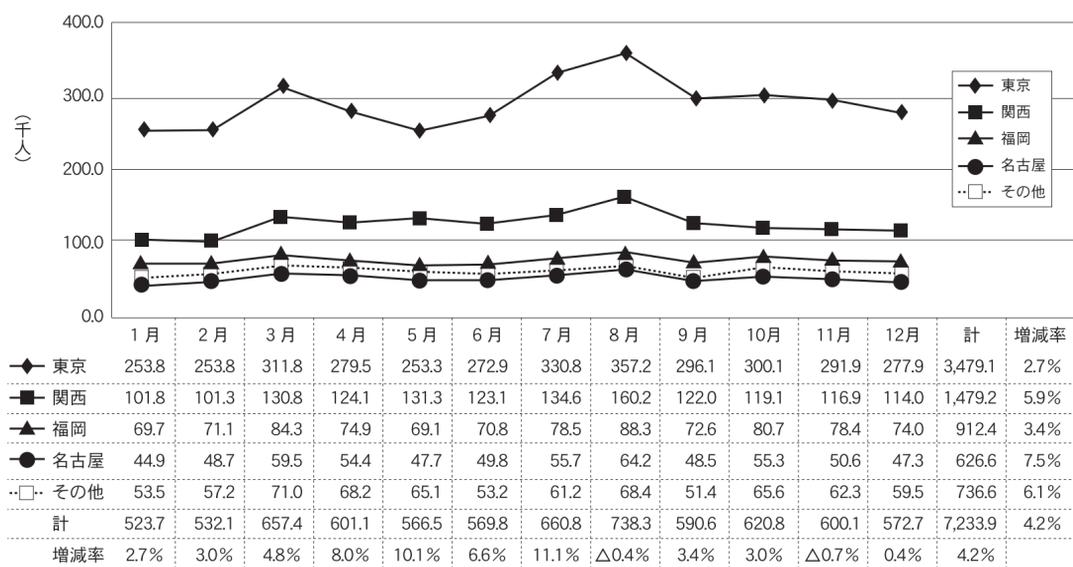
1016万3900人で過去最高

■月別入域観光客数の推移(平成29年～令和元年)

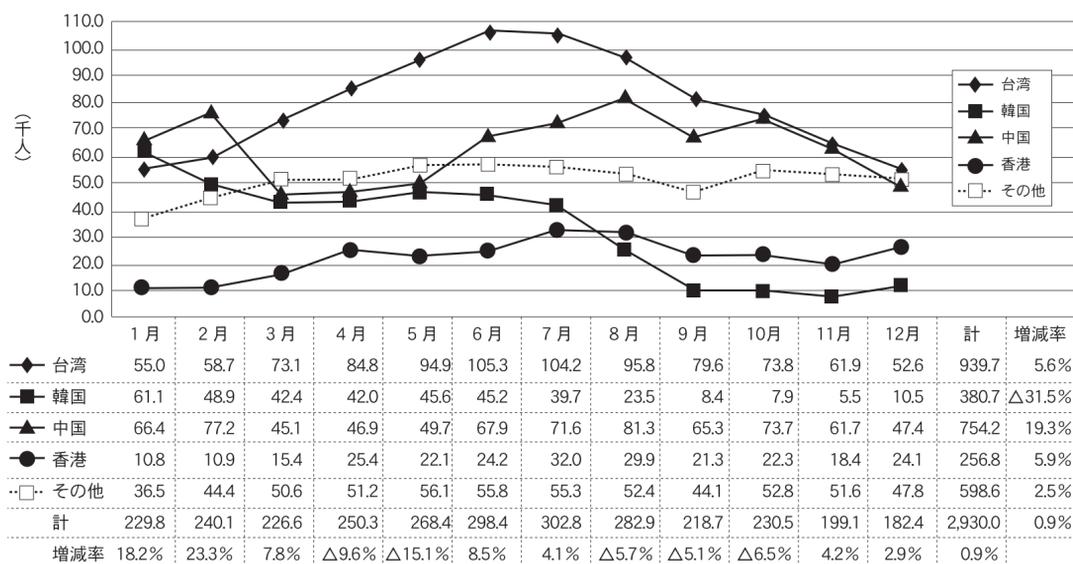


調査データ

■令和元年(暦年)国内観光客の状況(方面別の月別推移)



■令和元年(暦年)外国人観光客の状況(方面別の月別推移)



沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課の発表によると、令和元年(2019年)12月の同県入域観光客数は前年比3.2%増の1016万3900人増の1016万3900人増で、7年連続で過去最高を更新するとともに、初の100万人台を記録した。

増加の要因については、県では「行政や民間が一体となったローモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと」「下地島(宮古)路線の新規就航などの国内航空路線の拡充による国内客の増加」「海外航空路線の拡充、クルーズ船寄港回数の増加による外国客の増加」が挙げられている。

「前年は麻疹発生や自然災害の影響が大きかったことによる変動」を挙げている。

初の1000万人台を記録

国内客4.2%増、外国人客0.9%増

2%増(29万人増)。この増の93万7700人。航路の拡充に加え、クルーズ船の寄港回数も前年並みに推移し、航空客の、景気回復基調が海外客ともに増加、過去最高だった前年を上回った。初回の90万人台となった。

デンマークが10連休となり、4月に初めて60万人を超えたことや、成田38万7000人、訪日旅行客の増加が航空客の中心に減少、過去最高の前年を上回った。

外国人観光客の動向

過去最高の293万人増の75万4200人。航空客は前年並みに推移(2万6200人増)としたが、中国クルーズ船の寄港回数増で海外客が増加し、初の70万人台全体として前年並みとなった。

推察。航空客は香港市場の航空路線拡充があった25万6800人。航空客の韓国市場に向けた線の拡充に加え、香港発の訪日旅行自粛の動きやクルーズ船の寄港回数増で航空客の減便により前年を下回った。海客は増加。前年を上回り、平均クルーズ船の寄港回数増で29万2500人(前年比5.6%)の観光客となった。

台湾は前年比5.6%増の939.7千人。航空客は前年並みに推移(2万6200人増)としたが、中国クルーズ船の寄港回数増で海外客が増加し、初の70万人台全体として前年並みとなった。

推察。航空客は香港市場の航空路線拡充があった25万6800人。航空客の韓国市場に向けた線の拡充に加え、香港発の訪日旅行自粛の動きやクルーズ船の寄港回数増で航空客の減便により前年を下回った。海客は増加。前年を上回り、平均クルーズ船の寄港回数増で29万2500人(前年比5.6%)の観光客となった。